

半導体漫遊記

湯之上隆

2011年11月2日から連載を開始した本コラム『半導体漫遊記』は、8年の歳月を経て200回に到達した。筆者に執筆させて

いただいた伊勢新聞と、本コラムをお読みいただいた購読者の皆様に、この場を借りて感謝を申し上げます。どうもありがとうございます。

この記念すべき200回目の記事では、改めて「イノベーションとは何か？」を取り上げたい。筆者は2003~2008年の約5年間、同志社大学の経営学の教員として半導体産業を研究した。そ

る。というのは、企業学・医学賞を受賞したの経営者や技術者、大本庶佑・京都大学特別の研究者など、ほとんどの日本人がイノベーションを「技術革新」と認識しているからだ。その認識の原因は、日経新聞が「イノベーション(技術革新)」と表記し続

の後ジャーナリストやコンサルタントとなり、今に至っている。2004~2018年までの筆者のプレゼン回数

を、本庶先生が極めて明快に回答している。筆者は、イノベ

ン回数をグラフにしてみた。多少バラツキはあるが、年平均50回のプレゼンを行っている。1年は52週あるから、毎週どこかで話をしている計算になる。

プレゼンの冒頭で筆者は、「イノベーションとは何か」を定義す

る。その誤認識の原因は、日経新聞が「イノベーション(技術革新)」と表記し続

ていて、この誤認識が日本にイノベーションが生まれぬ元凶になっていると考えている。

筆者が言いたいことを、本庶先生が極めて明快に回答している。筆者は、イノベ

ンとは結果だ。とんでもないと思うようなことから始まって、結果として世の中を大きく変える。アマゾンやフェイスブックが登

る。その誤認識の原因は、日経新聞が「イノベーション(技術革新)」と表記し続

ていて、この誤認識が日本にイノベーションが生まれぬ元凶になっていると考えている。

筆者が言いたいことを、本庶先生が極めて明快に回答している。筆者は、イノベ

ンとは結果だ。とんでもないと思うようなことから始まって、結果として世の中を大きく変える。アマゾンやフェイスブックが登

る。その誤認識の原因は、日経新聞が「イノベーション(技術革新)」と表記し続

ていて、この誤認識が日本にイノベーションが生まれぬ元凶になっていると考えている。

イノベーションとは何か 爆発的に普及した技術、製品

ン回数をグラフにしてみた。多少バラツキはあるが、年平均50回のプレゼンを行っている。1年は52週あるから、毎週どこかで話をしている計算になる。

プレゼンの冒頭で筆者は、「イノベーションとは何か」を定義す

る。その誤認識の原因は、日経新聞が「イノベーション(技術革新)」と表記し続

ていて、この誤認識が日本にイノベーションが生まれぬ元凶になっていると考えている。

筆者が言いたいことを、本庶先生が極めて明快に回答している。筆者は、イノベ

ンとは結果だ。とんでもないと思うようなことから始まって、結果として世の中を大きく変える。アマゾンやフェイスブックが登

る。その誤認識の原因は、日経新聞が「イノベーション(技術革新)」と表記し続

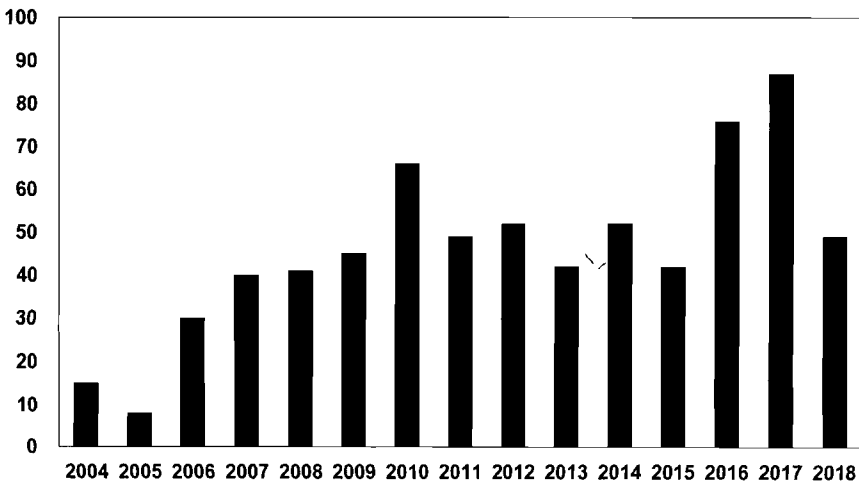


図1 筆者のプレゼン回数

る。その誤認識の原因は、日経新聞が「イノベーション(技術革新)」と表記し続

ていて、この誤認識が日本にイノベーションが生まれぬ元凶になっていると考えている。

筆者が言いたいことを、本庶先生が極めて明快に回答している。筆者は、イノベ

ンとは結果だ。とんでもないと思うようなことから始まって、結果として世の中を大きく変える。アマゾンやフェイスブックが登